

第3号 2008年 海開き

●Nakanoshima Clinic
中之島クリニック

通信

編集 中之島クリニック 編集部まもなひ

〒553-0003 大阪市福島区二丁目1番2号

TEL:06-6451-6100

FAX:06-6451-1234

URL:<http://nakanoshima-clinic.jp>

中之島クリニック 事務長 黒川雅夫



中之島クリニック事務長の黒川と申します。

中之島クリニックが開設して無事2年目を迎え、私も事務長として入職して何とか半年を超すことができました。

最近、医療現場ではチーム医療の重要性が盛んに唱えられています。このことは、私たちが携わっている予防医学の分野でも同じです。中之島クリニックでは、医師、看護師、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師の連携を重要視して運営にあたっており、営業やコールセンター、事務もチームの一員として連携して活動することが求められています。

事務というと、様々な専門職が集まる医療の分野では軽視されがちですが、私は、事務というのは、各職種をつなぐ潤滑油のような存在だと思っています。外からは目立たないものの、欠かすことのできない存在です。事務が生き生きと活動している医療機関は、燃費もよく加速も利く理想の車のような姿になるのではないのでしょうか。

私が入職したころのドック件数は現在の半分以下でした。右も左も分らない私としては先の見通しを立てることも怖いような状態でしたが、徐々に知名度も上がり、地道な努力の成果によって件数も順調に伸びてきており、たすなを引き締めて取り組めば将来に希望が持てるところまできているところです。これも偏に、被保険者各位に私ども中之島クリニックでの受診を勧奨していただいている各健康保険組合様、画像診断が必要な患者様をご紹介いただいている医療機関の先生方のおかげだと感謝いたしております。

現状に慢心することなく、これからも一層チームとしての力を発揮していきますので、今後とも中之島クリニックをよろしく願います。

「MR I 用肝臓造影剤 EOB・プリモビスト®注シリンジの使用開始について」

診療放射線技師 主任 中山一基

国内初の肝細胞特異性を有するMR I 用肝臓造影剤としてEOB・プリモビスト®注シリンジを当クリニックでも採用することになりました。

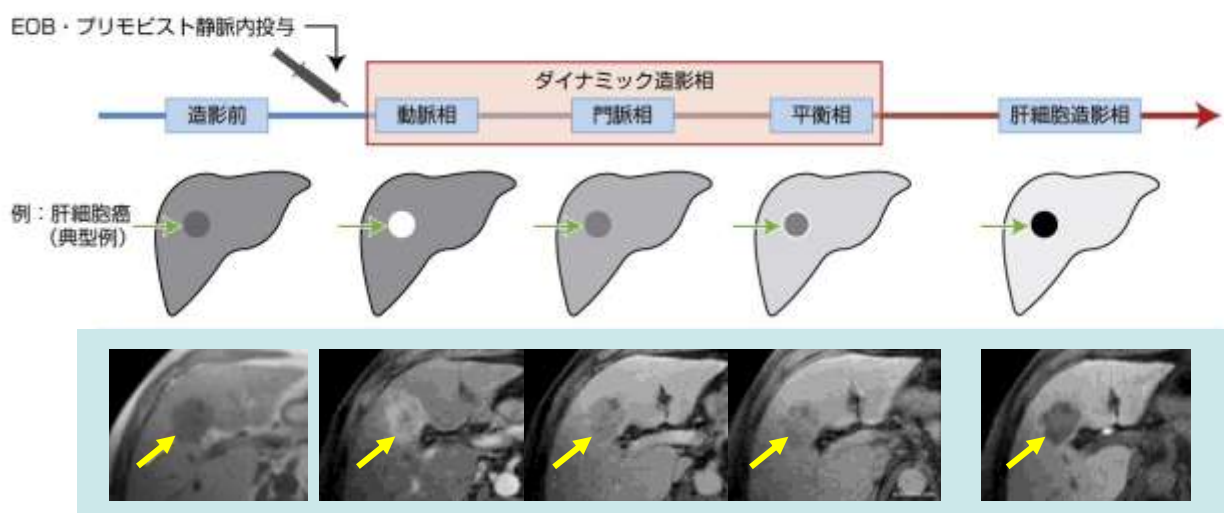
特徴としまして、1回の検査で、従来の造影剤と同様に血管及び細胞間隙に分布し、肝腫瘍の存在及び質的診断に有用な情報を与えるとともに、正常な肝細胞に取り込まれる特徴を有しています。それゆえ、EOB・プリモビスト®が取り込まれない病巣（特に悪性腫瘍）との間にコントラストの差をつけることにより、微小な病変でも鮮明に画像化することが可能です。

また、日本は、肝癌の患者数が中国に次いで世界で2番目に多く、この造影剤の採用により肝癌をより早期に、正確に、また、患者さんへの負担も少なく診断する事が可能になると期待できます。

この造影剤は、化学構造上の特性から正常な機能を有する肝細胞に選択的に取り込まれ、健常な肝組織画像を強調させます。肝機能をほとんど失った部位（例えば、のう胞、転移性肝癌、ほとんどの肝細胞癌）は強調されないので、容易に両者を区別することができます。また、投与直後の血流評価による診断に加えて、質的な診断（肝腫瘍の良悪性の鑑別など）にも利用できるという利点があります。

今までは、ダイナミックスタディによる病巣の血流評価と機能評価を1種類の造影剤で行えず、検査も2度に分けて患者様に来ていただく必要がありましたが、EOB・プリモビストにより、検査の簡便性と新たな評価が行えるようになりました。

このように新しい薬剤ですので、症例、画像等に関して諸先生方にご評価を頂戴したいと思いますので今後ともよろしくお願いいたします。



【イラスト提供】近畿大学 医学部 放射線診断学部門 村上卓道先生

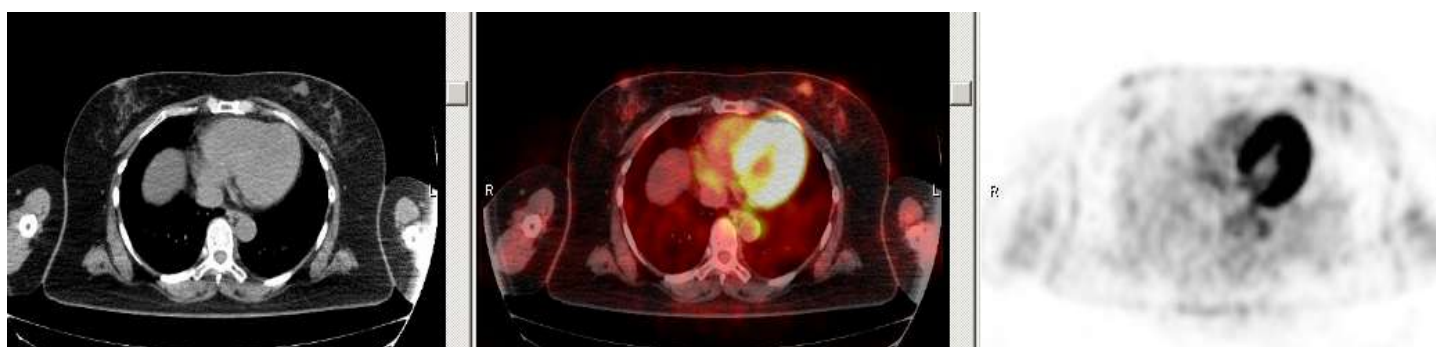
「バイエル薬品公開資料より引用」

「症例紹介」

当コラムでは中之島クリニックで経験した様々な症例をご報告いたします。

「50 歳代 女性、当院 PET-CT 検診にて発見された乳癌の 1 例」

中之島クリニック 放射線科部長 岩田 政広



CT画像

融合画像

PET画像

左乳腺内の 1cm 大の小さな軟部組織影に一致した巣状集積が認められ、乳癌の除外が必要との診断がなされた。精査の結果、乳癌(粘液癌)と診断され、乳房温存術および術後放射線治療にて現在軽快中である。

日本人の乳癌死亡率は増加傾向で、女性の癌死亡率第 4 位となっている。乳癌における FDG-PET 検査の有用性は多く報告されているが、1cm 未満の癌、DCIS のような非浸潤癌への集積は乏しく、PET 検診のみでは限界があることも知られている。乳癌対策としてはマンモグラフィや超音波検査と必ず組み合わせて施行されることが望まれる。

(臨床画像 Vol.23,2007 より)

「コラム」

プロ野球も前半戦が終わろうとしています、開幕当初から続く阪神タイガースの勢いが全く止まりません。

増えに増えた勝ち越しは28にもなり、ついに両リーグ最速の50勝目に到達。2位の宿敵中日ドラゴンズとは今季最大の12・5ゲーム差、3位巨人の自力優勝を消滅させて独走態勢に入り、クライマックスシリーズ進出(3位以内)マジックが55とほぼ確定的となり、リーグ優勝マジックも最短で7/10に「54」が点灯するまでになりました。このままいけば年間100勝も夢ではないことのように思えます。(7/9現在)

今年の戦い方は1番赤星が出塁し盗塁、2番関本 or 平野が送りバントで進塁させ3番新井、4番金本で本塁まで返し、6番鳥谷がダメ押し、ピッチャーは6回まで投げ切り、ここ数年決まりに決まった勝利の方程式「JFK」で逃げ切るという理想的な「強い、負けないチーム」です。

「強い、負けないチーム」という点で思い出すのは、80年代、森監督の1番辻、2番平野、3番秋山、4番清原、5番デストラーデ、6番石毛を擁する西武ライオンズを彷彿させる近年稀に見る「強い、負けないチーム」だと言えます。

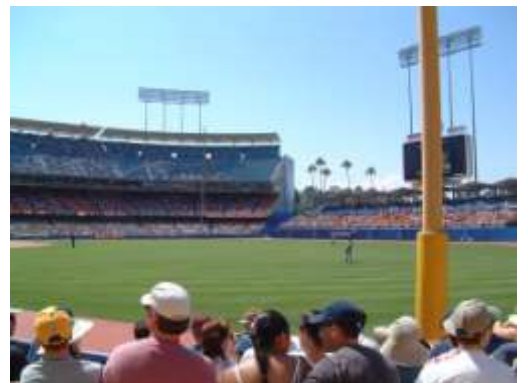
ただし、今年に限って言えば北京オリンピックが8月に開催されますので、JFKの2角である抑えの藤川、中継ぎ久保田、勝負強い3番ファースト新井、吉田義男の阪神での通年盗塁記録を超えようとしている赤星、頼れる女房役キャッチャー矢野などが抜ける時期がやってきます。

それに伴い、7月中は6連戦、9連戦という強行日程も組まれており、まだまだ安心ができない時期ですが、某在京球団が大リーガーを強行で4人補強するとか、レギュラー全員が故障で今年を棒に振るような信じられない事がなければまず間違いはないでしょう。

しかし暗黒時代を知る積年の阪神ファンとすれば「ひょっとして?」「もしかして?」という思いが心の片隅あることは否定できませんが、今年こそは優勝、そして日本一という大仕事を成し遂げる事を期待しております。

なかやま

※「中之島プチ通信」はコラムが長くなったため今回は休載いたします。



「編集後記」

中之島クリニックも開院して、はや1年が過ぎました。中之島周辺もテレビ局が近くに引越しされてきて、それに伴っていろいろなお店の開店ラッシュです。

仕事が終わるとそんなお店に寄る度に街全体が活気づいているのを肌で感じています。

第4号は阪神タイガースがアジアシリーズ出場を決めた、10月に発行予定です。よろしくお祈りします。



なかやま (C) s-hoshino.com